



パブリッシャ サーバおよび後続サーバでの Cisco Unified Presence インストール設定 の完了

- 「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストールの完了」(P.1)
- 「後続の Cisco Unified Presence サーバのインストールの完了」(P.3)
- 「インストール後のチェックリスト」(P.5)

Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストールの完了

Cisco Unified Presence クラスタ内には「パブリッシャ」は1つだけ存在します。このサーバを最初にインストールします。パブリッシャ サーバを新規インストールした後に一度だけ、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの設定、および Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバの AXL 情報の設定を要求されます。

この情報を設定するため、Cisco Unified Presence の新規インストール後に初めて Cisco Unified Presence の管理ページにログインすると、インストール後の導入ウィザードが起動します。



(注)

インストール後の導入ウィザードが起動した場合は、初期インストールに成功しています。



開始する前に

- インストール後の導入ウィザードは、Cisco Unified Presence の新規インストールの直後に必ず実行してください。また、Disaster Recovery System のデータをバックアップまたは復元する前に実行してください。Cisco Unified Presence をインストールして、インストール後の導入ウィザードの実行前に Disaster Recovery System のデータをバックアップまたは復元しようとすると、操作に失敗します。
- インストール後の導入ウィザードは一度しか実行できません。次回、Cisco Unified Presence の管理ページにログインしたときは、アプリケーションが自動的にインストール後の設定が完了していることを検知し、デフォルトで Cisco Unified Presence の管理ウィンドウが表示されます。
- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの IP アドレスを取得します (DNS を使用していない場合)。Cisco Unified Communications Manager の AXL 権限を持つアプリケーションユーザのユーザ ID を取得します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Presence の管理にログインします。

ステップ 2 次のように、インストール後の導入ウィザードを実行します。

ウィンドウ	設定手順
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 1/5 ページ	<p>a. [ホスト名 (Hostname)]フィールドに、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのホスト名を入力します。</p> <p>b. (任意) [IP アドレス (IP address)]フィールドに、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの IP アドレスを入力します。</p> <p> (注) ネットワークに DNS が存在しない場合は、ホスト名を IP アドレスに自動的に解決できないため、IP アドレスを入力する必要があります。DNS を使用してホスト名を IP アドレスに解決できる場合は、IP アドレスを空白にできます。アプリケーションは自動的に IP アドレスを検出します。</p>
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 2/5 ページ	<p>a. 適切なアプリケーション ユーザのユーザ ID を入力します。このユーザには、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャサーバに対応した Standard AXL API Access 権限が割り当てられています。</p> <p> (注) デフォルトでは、CCMAdministrator ユーザ ID に Standard AXL API Access 権限が割り当てられています。</p> <p>b. AXL パスワードを入力および確認します。</p> <p>c. [次へ (Next)]を選択します。</p>
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 3/5 ページ	<p>a. Cisco Unified Presence の初期インストール中に入力したセキュリティパスワードを変更および確認入力します。Cisco Unified Presence の後続サーバをインストールする際には、これらのサブスクリバサーバは新規セキュリティパスワードを使用し、Cisco Unified Presence パブリッシャサーバのインストール中に使用されたものは使用しないことに注意してください。</p> <p>b. [次へ (Next)]を選択します。</p>
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 4/5 ページ	<p>設定を確認し、次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - エラーを修正するには、[戻る (Back)]を選択します。 - 続行するには、[確認 (Confirm)]を選択します。
インストール後の導入ウィザードのウィンドウ 5/5 ページ	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Cisco Unified Presence の管理ウィンドウを表示するには、[ホーム (Home)]を選択します。 - Cisco Unified Presence のシステム ダッシュボード ウィンドウを表示するには、[システム ダッシュボード (System Dashboard)]をクリックします。 - システム トポロジ ウィンドウを表示するには、[トポロジ (Topology)]をクリックします。

トラブルシューティングのヒント

- エラーメッセージが表示された場合は、Cisco Unified Communications Manager で AXL が実行されているかどうか、およびユーザ ID とパスワードが正しいかどうかを確認してください。ブラウザを使用して、`http://<<CUCM Hostname>>/axl` と入力します。ユーザ ID とパスワードを入力するようにプロンプトが表示されます。入力した内容が正しいければ、Web ページに AXL が実行中で、要求の受信準備ができていたことが確認が表示されます。
- インストール後のウィザードは一度しか実行できません。この初期設定後に Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのアドレスまたは AXL 情報を変更する場合は、Cisco Unified Presence の管理で、[システム (System)] > [CUCM パブリッシャ (CUCM Publisher)] の順に選択します。
- Cisco Unified Presence の後続サーバは、パブリッシャ サーバの設定チェック後、パブリッシャ サーバから Cisco Unified Communications Manager パブリッシャの情報を取得します。
- 製造中止となったハードウェアのアップグレードを実行すると、Cisco Unified Presence から警告が表示されます。Cisco Unified Presence は、製造中止となったハードウェアからのブリッジアップグレードをサポートします。ブリッジアップグレードにより、製造中止となったハードウェアでの DRS バックアップができるようになります。バックアップ後に、サポートされるハードウェアで DRS を復元できます。

関連項目

- 『*Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』
- 『*Disaster Recovery System Administration Guide*』
- 「ブリッジのアップグレード」(P.4)

次の手順

- 「インストール後のチェックリスト」(P.5)

後続の Cisco Unified Presence サーバのインストールの完了

この手順は、Cisco Unified Presence クラスタ内の最初のサーバ（パブリッシャ）ではない、後続の（サブスクリバ）サーバをインストールする場合だけに適用されます（[ステップ 9](#) を参照）。

後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールするときは、後続サーバを Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバと関連付けて、後続サーバのホスト名と IP アドレスを設定する必要があります。新しいサーバにはそれぞれ、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバへのネットワーク アクセスも必要です。

追加の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前に、ネットワーク接続性診断ツールを使用してネットワーク接続性の問題を検査するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。システムが Cisco Unified Presence でパブリッシャ サーバへのネットワーク アクセスを確認できない場合は、ログを通じて異常点が報告されます。続行する前にサーバの問題を調査する必要がある場合は、設定の途中でプロセスを一時停止できます。

開始する前に

- Cisco Unified Presence の基本インストールを開始および設定し、クラスタ内に後続サーバをインストールする場合はここから続行します。

- Cisco Unified Presence でのパブリッシャ サーバの設定が完了し、インストール後の導入ウィザードが正常に実行されたことを確認します。後続サーバをインストールするときは、「最初のノード」としてインストールした元のパブリッシャ サーバを考慮してください。
- Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用し、Cisco Unified Presence 後続サーバの追加を計画している場合、次の作業の実施を推奨します。
 - パブリッシャ ノードのトポロジ ビューで後続サーバを追加してから、後続サーバをインストールしてください。
 - 後続サーバをインストールするまでは、後続サーバをサブクラスタに割り当てないでください。



(注)

Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバで後続の各サーバを設定するには、Cisco Unified Presence の管理ページで、[クラスタ (Cluster)] > [トポロジ (Topology)] の順に選択します。[トポロジ (Topology)] ウィンドウでは、一度に複数の後続サーバを追加できます。たとえば、パブリッシャ サーバを含めて 6 台のサーバが存在するマルチノードクラスタをインストールする場合は、Cisco Unified Presence システム トポロジに、5 台の後続サーバを同時に追加できます。

手順

-
- ステップ 1** [First Node Configuration] ウィンドウで、[OK] を選択して続行します。
- ステップ 2** ネットワーク接続性テストの検証が完了してからインストールを続行するには、[No] (デフォルトのオプション) を選択します。
- ステップ 3** パブリッシャ サーバへの正常なネットワーク接続が確認できた場合は、[Continue] をクリックします。
- ステップ 4** [First Node Access Configuration] ウィンドウで、次の情報を入力します。
- Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのホスト名
 - Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバの IP アドレス
 - Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバにアクセスするためのセキュリティ パスワード
- ステップ 5** [OK] を選択して続行します。
- ステップ 6** SMTP ホストを設定する場合は、[SMTP Host Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。
- a. [Yes] を選択します。
 - b. SMTP の場所を入力します。
- ステップ 7** [Platform Configuration Confirmation] ウィンドウで、次のタスクを実行します。
- a. ソフトウェアのインストールを開始するには、[OK] を選択します。
 - b. 設定を変更するには、[Back] を選択します。
- ステップ 8** インストール処理が完了すると、管理者のアカウントとパスワードを使用してログインするようにプロンプトが表示されます。
-

トラブルシューティングのヒント

- Cisco Unified Presence に設定するセキュリティ パスワードは、Cisco Unified Communications Manager Publisher サーバで使用されるパスワードと同一にする必要があります。
- 後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前にサブクラスタに割り当てた場合は、リモートクラスタのユーザがプレゼンス情報を受信できません。サーバがインストールされるまで、プレゼンス機能は停止します。

- 一部のオペレーティング システム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Operating System のインターフェイスまたは CLI を使用して、後で設定することもできます。
- Cisco Unified Presence インストールで複数のサーバを導入する場合は、Cisco Unified Presence でマルチノード機能を使用する必要があるため、ハードウェアにマルチノード機能との互換性があるかどうか確認してください。Cisco Unified Presence の新規インストールまたはアップグレードのどちらでも、この作業が必要です。特定のマルチノードの導入戦略、および高可用性を実現するための推奨事項については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

関連項目

- 「基本インストールの設定」(P.4)

次の手順

「インストール後のチェックリスト」(P.5)

インストール後のチェックリスト

Cisco Unified Presence クラスタ内にインストールする各サーバで、次の表の手順に示したタスクを実行します。



注意

ただし、後続の Cisco Unified Presence サーバをインストールする前に、Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバに対してインストール後のチェックリストを実行したことを確認してください。

開始する前に

- Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバで、インストール後の導入ウィザードを実行し、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのアドレスおよび AXL パラメータを設定します。
- Cisco Unified Presence の新規インストール直後に、システムはデフォルトで 90 日間の評価モードになります。これは評価用の試用期間です。この期間中は次の操作が可能です。
 - 組織に Cisco Unified Presence サーバのライセンスがなくても、このサーバの使用または「実行」が可能
 - この組織内のユーザで、Cisco Unified Communications Manager にすでに設定されているユーザは、Cisco Unified Presence にアクセスが可能で、Cisco Unified Personal Communicator を必要なユーザ ライセンス (DLU) がなくても使用できるように設定できる

インストール後のタスク	特記事項
評価用の試用期間が終了する前、または終了後に、Cisco Unified Presence を実稼動モードに移行するには、あらかじめ取得してある Cisco Unified Presence サーバ ライセンス ファイルをアップロードしてください。	Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)] > [ライセンス (Licensing)] > [ライセンス (License)] > [ファイルのアップロード (File Upload)] の順に選択します。
Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイを設定します。	Cisco Unified Presence の管理ページで、[プレゼンス (Presence)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。

インストール後のタスク	特記事項
<p>Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバで Cisco Unified Communications Manager を実行している場合は、次の作業が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュ トランクを設定する • Cisco Unified Presence で SIP パブリッシュを有効にする 	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュ トランクを設定する方法については、『<i>Deployment Guide for Cisco Unified Presence</i>』を参照してください。 • Cisco Unified Presence で SIP パブリッシュを有効にするには、Cisco Unified Presence の管理ページで [プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] の順に選択します。
<p>クラスタに後続の Cisco Unified Presence サーバを追加する場合は、Cisco Unified Presence パブリッシャで後続の各サーバをサーバとして設定した後で、サーバをインストールしてください。</p> <p>(注) すべてのサーバを一度に追加できません。たとえば、パブリッシャを含めて 6 台のサーバが存在するマルチノードクラスタをインストールする場合は、Cisco Unified Presence システム トポロジに、5 台の後続サーバを同時に追加できます。</p>	<p>Cisco Unified Presence の管理ページで、[システム (System)] > [トポロジ (Topology)] の順に選択します。</p>
<p>システム トポロジ内のサーバにユーザを割り当てます。</p>	<p>ユーザの割り当ては、Cisco Unified Presence の管理ページのサービス パラメータとして自動的に有効になります。ユーザの自動および手動の割り当ての詳細については、『<i>Deployment Guide for Cisco Unified Presence</i>』を参照してください。</p>
<p>次のような、必要な Cisco Unified Presence サービスを起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco UP SIP Proxy • Cisco UP Presence Engine • Cisco UP Sync Agent 	<p>Cisco Unified Serviceability で [Tools] > [Service Activation] の順に選択します。</p>
<p>Cisco UP XCP Router サービスで Cisco Unified Presence がオンになっていることを確認します。</p>	<p>Cisco Unified Serviceability で、[Tools] > [Control Center - Network Services] の順に選択します。</p>

インストール後のタスク	特記事項
バックアップを設定します。 毎日必ず Cisco Unified Presence をバックアップしてください。	ネットワーク上で Cisco Unified Presence をバックアップするには、Secure File Transfer Protocol (SFTP) サーバへのアクセスが必要です。
クラスタ ID を確認します。	<p>複数の Cisco Unified Presence クラスタを導入している場合は、個々のクラスタに固有のクラスタ ID 値が必要です。Cisco Unified Presence はこのクラスタ ID 値を使用して、RTMT ツールで送信されたアラート通知のソース クラスタを識別できます。</p> <p>インストール時に、システムは固有のクラスタ ID を Cisco Unified Presence バブリッシュャ ノードに割り当てます。システムはクラスタ ID を配布して、クラスタ内のすべてのノードが同じクラスタ ID 値を共有できるようにします。</p> <p>Cisco Unified Presence の管理ページで、[プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] の順に選択し、クラスタ ID の表示または設定を行います。</p>

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Presence サーバを使用する前に、Cisco Unified Presence Sync Agent がアクティブになるまで待つ必要があります。

関連項目

- Cisco Unified Presence のライセンス モードの詳細については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。
- RTMT ツールの詳細については、『*Serviceability Configuration and Maintenance Guide for Cisco Unified Presence*』を参照してください。次の URL で入手できます。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/prod_maintenance_guides_list.html

■ インストール後のチェックリスト